

千里ライフサイエンスセミナー N2 「オルガノイド研究の現状と展望」

日 時：2019年7月24日(水)10:30~17:00

場 所：千里ライフサイエンスセンタービル 5F

山村雄一記念ライフホール

(大阪メトロ御堂筋線・北大阪急行 千里中央駅 北口
すぐ)

演題および演者：(*：コーディネーター)

「オルガノイドによる消化器疾患研究」

佐藤俊朗(慶應義塾大学医学部坂口光洋記念講座教授)*

「卵母細胞系列の再構築の現状と課題」

林 克彦(九州大学大学院医学研究院ヒトゲノム幹細胞医学分野教授)

「多能性幹細胞を用いた神経発生システムの再現と制御」

永樂元次(京都大学ウイルス・再生医科学研究所教授)

「ヒト肝臓を対象としたオルガノイド医学」

武部貴則(東京医科歯科大学統合研究機構教授)

「iPS細胞を用いた肺オルガノイドからの呼吸器疾患モデリング」

後藤慎平(京都大学大学院医学研究科呼吸器疾患創薬講座特定准教授)

「発生学をもとに腎臓を創る」

西中村隆一(熊本大学発生医学研究所腎臓発生分野教授)*

趣 旨：発生の過程において、受精した胚は一種の幹細胞としてあらゆる組織を作り出し、生後の成熟によって機能的な組織が完成する。一方、成体組織の多くは、組織幹細胞の自己複製と分化により、その機能が維持され

る。こうした幹細胞からの複雑な組織形成・分化・維持のプロセスの理解は、2次元培養では不十分であった。近年、多能性幹細胞・組織幹細胞から様々な3次元組織構造体“オルガノイド”を作り出す技術が開発された。オルガノイド培養は、これまでブラックボックスであった組織形成・分化過程を“見える化”し、新しい知見を続々と生み出している。また、オルガノイドは生体組織に近い機能を有し、再生医療への応用が始まっている。さらに、疾患組織のオルガノイドモデリングによって、疾患の病態理解や創薬研究が注目を集めている。今回、国際的な活躍をしているオルガノイド研究者を糾合し、どのようにオルガノイドを作り、研究に応用していくか、わかりやすく講演頂く。

参加費：無料

定 員：200名(定員になり次第締切り)

申込方法：氏名・勤務先・所属・役職名・〒・所在地・電話を明記の上、E-mailでお申し込みください(FAX申込み可)。事務局より「参加証」をお送りいたします。

申込先：セミナー N2 事務局

E-mail：dsp-2019@senri-life.or.jp

Fax：06-6873-2002

主 催：公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団

Tel：06-6873-2001

詳 細：URL：<http://www.senri-life.or.jp/seminar/seminar-1-20190724a.html>